

令和5年5月31日（水曜日）

高速道路 4車線を標準にすべき 自民党・参院国交委で質問 足立議員



自民党の足立敏之参院議員が30日の参院国土交通委員会、高速道路網の将来像などについて質問した。写真。足立議員は米国や欧州各国、韓国などと高速道路の整備水準を比較し「日本は2流、3流」と断じ、インフラ投資への姿勢が高

速道路の整備水準に直結しているとも指摘。ミッショングリンクや暫定2車線区間を解消する重要性を説き「生産性や安全性の高い4車線を高速道路の標準にすべき」と訴えた。

道路整備特別措置法（特措法）と日本高速道路保有・債務返済機構（高速道路機構）法の一括改正案の審議に当たって、更新財源を安定的に確保した上で高速道路の整備をどう進めるか、斉藤鉄夫国土交通相と丹羽克彦道路局長に説明を求めた。

斉藤国交相は欧米・近隣諸国から整備水準で立ち遅れている実情を認めながらも「日本の国土は急峻（きゆうしゅん）で細長く、国

民の安全意識も高いため規格の高い道路になっている。これからも防災・減災に寄与し産業構造をしっかりと支えるため、国土形成計画に従って整備しないといけない」と強調。今夏にも決定する次期国土形成計画で「シームレスな拠点連結型国土」の構築などが打ち出されていることを踏まえ「必要な機能強化を進めた」と述べた。

丹羽局長は「改正法案で確保される財源は更新事業に優先して充当する」としながらも「国土強靱化などの社会的要請を踏まえ、交通事故が集中する区間、災害時の通行止めリスクが高い区間の4車線化、耐震補強などが必要」と指摘。ミッショングリンクの解消には、地元自治体の意向や適切な事業評価を通じ新規事業化を検討する必要性を説明した。